

日本版HTA(医療技術評価)の 現在地と未来図

— 臨床現場と社会実装の 視点から —

日本で急速に進む高齢化と人口減少により、医療資源をどう納得の行く形で配分していくか。私たちがまだ見ていない将来をどう設計していくかが問われています。

私たちCSP-HORの年会では、発足当初から医療技術評価の課題やあり方を問いかけてきました。そのような中、日本では「費用対効果評価」を行う仕組みが2019年度から制度化され、国立保健医療科学院に保健医療経済評価研究センターが誕生しました。医療資源をどう適切に配分していくのかを検討するためには、まず的確な医療技術の評価が求められると思います。

当年会を、今私たちはどこに立っているのか現在地を確認し、よりよい未来に向かって参加いただく方々も一緒に議論できる機会にしたいと考えています。

ヘルスアウトカムリサーチ支援事業(CSP-HOR)運営委員会
委員長 高山 智子

2026年

7月26日(日) 13:00-17:05

参加費: 製薬関連の企業 10,000円(税込), 一般 2,000円(税込), 学生・患者関係 無料

会場: 東京大学医学系研究科教育研究棟鉄門記念講堂(東京都文京区本郷7-3-1)

申込受付URL: <https://www.phrf.jp/csp/csp-hor/2026>

年会終了後に情報交換会を行います。無料にてご参加いただけます。

主催 公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター

後援 一般社団法人 QOL-PRO研究会 国際医薬経済・アウトカム研究学会(ISPOR)日本部会
一般社団法人 日本臨床試験学会 認定NPO法人 キャンサーネットジャパン

日本版HTA(医療技術評価)の現在地と未来図

— 臨床現場と社会実装の視点から —

開会の辞 高山 智子 (静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科)

第1部 医療の最適化を目指した臨床試験の実際と医療現場への還元

13:05-13:25 司会 川原 拓也 (東京大学医学部附属病院 臨床研究推進センター)

「医療の最適化を目指した臨床試験の実際」

岩谷 胤生 (聖マリアンナ医科大学 医学部 乳腺・内分泌外科学)

13:25-13:45 司会 堀抜 文香 (国立がん研究センター がん対策研究所がん情報提供部)

「病院を挙げて行う全人的がん相談支援に向けて:

がん相談教育ネットワーク事業(通称:CCTNP)」

高山 智子 (静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科)

13:45-14:00 休憩

第2部 日本版HTA(医療技術評価)の現在地と未来図 — 臨床現場と社会実装の視点から —

司会 森田 智視 (京都大学大学院医学研究科 医学統計生物情報学)

岩谷 胤生 (聖マリアンナ医科大学 医学部 乳腺・内分泌外科学)

14:00-14:45 「日本の費用対効果評価制度のいまと課題」

森脇 健介 (立命館大学 生命科学部 生命医科学科)

14:45-15:30 「日本の医療現場におけるHTAの距離感」

後藤 悌 (国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科)

15:30-15:45 休憩

15:45-16:30 「未定」

福田 敬 (国立保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター)

16:30-17:00 パネルディスカッション

パネリスト:

森脇 健介 (立命館大学 生命科学部 生命医科学科)

後藤 悌 (国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科)

福田 敬 (国立保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター)

國頭 英夫 (日本赤十字社医療センター 化学療法科)

閉会の辞 森田 智視 (京都大学大学院 医学研究科 医学統計生物情報学)

参加のお申込みは、当年度のホームページより受付けております。

申込受付期間 2026年7月23日まで

公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター

ヘルスアウトカムリサーチ支援事業(CSP-HOR)事務局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-1-7